

豚繁殖・呼吸障害症候群ワクチン非接種農場における欧州型ワクチン株検出事例

茨城県県西家畜保健衛生所

○佐藤朝咲 藤井勇紀

令和6年度、豚繁殖・呼吸障害症候群(以下、PRRS)のウイルス浸潤状況調査として、管内100養豚場を対象にPRRS-qPCR検査を実施。令和6年5月、A農場で欧州型PRRSウイルスを検出。A農場では欧州型PRRSワクチンの接種歴はなく、野外株を疑い、シーケンス解析を実施。結果は欧州型ワクチン株(相同性99%)と判定。他農場で接種された欧州型ワクチン株の農場間伝播を疑い、令和5年度に溯り保存血清の追加検査と関連農場の調査を実施。結果、A農場と隣接するB肥育農場から15km離れたB繁殖農場で、令和5年5月に欧州型ワクチンの接種実績を確認。また、6か月後の令和5年11月のB繁殖農場血清から欧州型ワクチン株を検出。以上から、B繁殖農場で接種された欧州型ワクチン株がB肥育農場に伝播後、A農場に伝播したと推察。また、令和6年2月にB繁殖農場から100m離れた、ワクチン接種歴のないC農場で、180日齢豚から欧州型ワクチン株を検出。C農場では、8か月後の令和6年10月の60、90日齢子豚でも欧州型ワクチン株が検出されており、農場内での感染維持が推察。PRRS生ワクチン接種豚群における飼養衛生管理の徹底による近隣伝播リスク低減を改めて注意喚起。さらに、今後は欧州型ワクチンが販売されていることを踏まえ、欧州型株の検出も想定した、新たなPRRS検査体制の構築が必要と考える。